

B2クラスは背水の陣で臨んだ小石孝浩選手が逆転勝ちを取めた。



## 小石孝浩S2000、超僅差のバトルを制して今季3勝目を獲得

**J**AF九州ジムカーナ選手権は、1週間前に全日本選手権が行われたばかりのスピードパーク恋の浦で、シリーズ第7戦が行われた。今回が終われば、残るのは最終戦のみという天王山の一戦となっただけに、各クラスで力のこもった戦いが展開された。

今回のコースレイアウトはスタート後、下段のコース部分に下りてフルに走り抜けた後に上

1. SA2クラスは古賀雄一選手が2本ともベストを奪って快勝。2. B1クラス3位入賞の岡田和浩選手。3. B2で3位の影山幸輝選手。4. PN2で3位は井上直喜選手。5. PN1の3位は池口良和選手。

段に戻って広場の高速スラロームをクリア。その後、広場をそのまま抜けて下った後に、また広場に戻り、タイトなパイロンセクションを抜けてゴールという設定。やや難易度が高かったが、過半数を超える参加者がミスコースや何らかのペナルティを受けるという一戦となった。

5台がエントリーしたB2クラスは、開幕戦からすべて表彰台に上がっている藤本晃太選手が3勝をあげてランキングトップを走るが、2番手の小石孝浩選手も、第3戦から優勝、2位、優勝、2位と安定して好成績をキープしている。

ヒート1のトップは1分39秒78のタイムで管智寛選手が奪うが、小石選手は40秒21で4番手。藤本選手も生タイムでは3番手につけたが、2本のパロインペナルティを喫して最下位に沈んでしまう。だが参加した5台がすべて1秒以内にひしめくだけに、ヒート2に向けてもまったく予断を許さない展開となった。

注目のヒート2では先頭ゼッケンの影山幸輝選手が38秒台でゴールするも、これはパイロンタッチでご破算に。続く管選手は1秒タイムダウンに終わり、注目のラスト2台の出走に。

小石選手は管選手の暫定ベストを0.04秒上回ったが、最終ゼッケンの藤本選手は40秒の壁を破れず、まさかの4番手に。小石選手が藤本選手に並ぶ3勝目をマークして、タイトルレースに踏みとどまった。「勝たないともう後がない」というプレッシャーで1本





6. PN1で2位入賞の早田洋介選手。7. PN2で2位の関岡優季選手。8. SA2で3位の白川希選手。9. SA1の3位は安河内茂喜選手。10. 今回はOPクラスに参戦した奥園圭介選手は大差で優勝。11. 最大の激戦区となったPN2クラスは米田泰章選手が今季初優勝をさらった。12. B1クラスは広島から遠征の坂井一弥選手が初走行の恋の浦で勝利をさらった。13. SA1の井上洋選手は負けなしの6勝目をオーバーオールウインで飾った。14. PN1は奥山和宏選手がヒート1のタイムで逃げ切って2連勝。15. B2管智資選手は2位入賞。16. B1で2位の井手本政幸選手。17. SA2の2位は中村孝選手。18. SA1の坂本高城選手も2位に入賞。19. B1クラス表彰の皆さん。20. B2表彰の皆さん。21. PN1表彰の皆さん。22. PN2表彰の皆さん。23. SA1表彰の皆さん。24. SA2表彰の皆さん。25. PN2で5位の富田保博選手。26. PN1で4位の豊武孝太郎選手。27. PN2で4位の森川勝博選手。

目は気合が空回りしてしまいました。2本めの前の慣熟歩行で冷静になれて攻略法を考え直せたのが良かったと思います。もっとうまく走れたと思いますが、やれることはやりきまし

た」と小石選手。最終戦決戦に向けて決意を新たにしていた。  
また今回、参加9台と最多のエントリーを集めたPN2クラスは、ヒート1から0.5秒の間に

4台が並ぶ大接戦となったが、ヒート1首位の米田泰章選手が、ヒート2でもしっかりタイムを詰めて逃げ切り、今季初優勝を飾っている。

一方、SA2クラスは同じクラブに所属する古賀雄一、中村孝両選手の対決に注目が集まった。ここまでシリーズを大きくリードするのは古賀選手だが、今季2戦欠場している中村選手が、二人の直接対決では2勝1敗と先行し、シリーズ2位まで順位を上げてきている。

しかし今回は古賀選手の速さが際立つ一戦に。中村選手に3秒近い差をつけて快勝し、タイトルレースのリードをさらに広げた。

「全日本の公開練習とほぼ変わらない設定だったので攻略法で迷わなかったのが良かったと思います。2本めは頑張りすぎない走りを心掛けて、その通り走れたのでタイムアップが確信できました」と古賀選手。来季は全日本をメインに戦いたいと抱負を語ってくれた。

### 地区戦と同日開催のオートテストは36台が参加と大盛況!

九州地区では今年、オートテストが頻繁に開催されるようになっているが、今回の地区戦が行われた9月15日にも、ジムカーナ競技が終了した午後、会場も同じスピードパーク恋の浦でオートテストが開催された。今回の設定はスタート後、8の字スラロームをクリアした後に2度の「車庫入れ」を行ってゴールという設定。ATクラスには11台、MTクラスには25台の参加があり、MTクラスではアパルト595を駆った岡藤雅昭選手(写真)が総合ベストの37秒2を叩き出して快勝した。

